

Akatake Times

Vol. 52
(通算 第205号)



明けましておめでとうございます
この三日は風もなく好天に恵まれ穏やかな正月を迎えることができました。
何といても天変地異の災いが起こらないことは大変ありがたく、
平穩のありがたさをかみしめています。
喜怒哀楽の人生、今年もいろんなことが待っています。
心を強くして怒哀を乗り越え喜樂に変えていきたいものです。

from Directors Message

～ 謹賀新年2023 ～

皆さんのおかげで会社も目標に向かって着実に進んでいることに、先ず以て感謝いたします。今年も「何よりも安全第一を最優先する」ことを肝に銘じ、ことに当たるようお願いします。その上で、さらに個々のレベルアップを心がけていただきたい。各部署の向上を目指し個々の技術を磨き、いかにして貢献していくかを常に考え、行動に表していただきたい。皆でお客様を乗せる安全・安心な籠を担ぎましょう。

◆「揺れる世界情勢」

2020年1月に、日本で初めて新型コロナ感染が確認されてから4年目を迎えようとしています。昨年は3年ぶりに行動制限のない緩和策がとられたが12月に入り第8波が到来し、死者数も増加。感染者が急増している中国からの入国緩和も行い、不安増大。出口が見つからないまま新年を迎えました。私どもは公私にわたり基本的な感染防止に努め、気を緩めず暮らしていきましょう。

外に目を向けると、世情は全く予断を許さない状況にあります。2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻はいまだ収束せず、双方の死者は増加の一途、ウクライナの人々は悲惨な状況下にあります。一刻も早い終結を切に望むものです。為替変動、半導体不足などによる企業物価高騰、長納期化のみならず消費者物価も上昇し我々の生活を脅かしています。世界的な天候不順による食料不足と天災によるインフラの破壊、サプライチェーンの切断、台湾問題、米中問題等々枚挙にいとまがありません。私どもとしてはこれらのことが相まって顧客の設備投資が衰えることが最大の懸念です。

国内政治に目を向けると、党利党略・私利私欲に忙しい政治には失望します。命がけで経営に当たっている者として情けなく暗澹たる思いです。国を憂え、命がけで国のリーダーとならん人が早く出てきてほしいと願うばかりです。しかし、一番厄介なのは、政治家を選ぶ選挙に無関心かのような投票率を示す有権者かもしれません。

昨今、人の命を大事にしない輩が多くなってきたように思います。自分の意に沿わないと平気で他人を傷つけるのです。また、障害と共に生きる人、高齢者、子供たちを害する行為も多くなっているように思えます。生活難に苦しむ母子家庭、一人で暮らさなくてはならない子供たちが増えている、ルールを守らないモラルの低下・・・国内にも多くの問題を抱えています。私たちは常にこれらの問題に目を向け、必要があれば手を差し伸べることが肝要かと思えます。

◆「粉体もナノテク技術」

DDS (Drug Delivery System/ドラッグデリバリーシステム) は以前から研究開発されている技術です。実用化に向けて着々と進んでいるようです。以下に(株)ナノエッグのHPから・・・『一般に、粒子径が数10nm(1nm:10億分の1m)ほどの球状製剤をナノカプセルと呼びます。薬物を含む相を合成高分子や天然高分子の皮膜で覆い、局所での薬物の持続的放出や組織標的化を狙うDDS技術です。ナノエッグが開発したナノカプセル技術は、世界で初めて炭酸塩という無機質コートを採用。薬物包接濃度が99%と極めて高く、生体適合性に優れ、生産上のメリットが高い点が他の無機質コートカプセル化技術との相違点です。レチノイン酸(ビタミンAの生理活性体)をはじめとしたいくつかの成分のナノカプセル化に成功しています』

◆「5S活動は仕事だ！」

- ◎ 5S活動に取り組み16年が経過しました。初期活動に携わった方々はその意義、目的を多くの苦難を乗り越え実践、実感してきました。その後に入社された社員、協力会社の方々など初期活動を知らない方々へ指導を徹底していただきたい。
- ◎ 形骸化を阻止願いたい。手段と目的がゴチャゴチャになっていないか？ やらないほうが楽の気持ちが芽生えていないか？ ゴミをまたいでいないか？ 見て見ぬふりをしていないか？ 他人任せにしていないか？ 形だけの心がこもらない活動はダメ。
- ◎ 5S活動をチンタラやっている者は、ほかの仕事も手抜きしていると思ったほうがいい。私はいつもそう思って見えています。そういう意味でも実に良い活動(仕事)です。
- ◎ そろそろ5S見学も少人数なら受け入れさせていただくことを検討願いたい。刺激が欲しいのです。

※本の紹介:「揺れる大地を賢く生きる」鎌田浩毅著 KADOKAWA発行
減災を説いています。私たちが身近なところから見つめ直し、防災・減災に努めましょう！
ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀